

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

多面的機能支払
熊野・御浜・紀宝

ひろたかわりゆういきすいでん まも かい

Vol.8 広田川流域水田を守る会(仮称)(御浜町阿田和地区広田)の軌跡

—美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく—

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。

本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、来年度から新たに活動を計画している「広田川流域水田を守る会(仮称)」を紹介する。

阿田和にいい田あったわ！ 水田のある風景と暮らしを守るために



畑中時男さん(左)
中山 豊さん(右)

山口博司さん(左)
原田祐輔さん(右)

御浜町阿田和地区。ここは、御浜町のなかで最も人口が多い地区である。国道42号線から紀南病院方面に向かうと広田の田んぼが広がっており、広さは約40ヘクタールある。かつては、一面に田園風景が広がり、阿田和の米どころであったが、近年では耕作放棄地が目立ち始めていることも事実である。

令和5年秋頃から、広田の田園風景を守るために活動している人々による新たな取組が、今始まるうとしている。発起人の中山さん、畑中さん、原田さん、山口さんにお話を伺った。

—広田の田んぼについて教えてください。—
中山—広田川は昔から大雨時には氾濫するため、広田川に沿って広がっている田んぼは遊水地となり、住宅地への被害を軽減させる役割も担っています。
僕が子どもの頃は、広田川にはウナギやドジョウがいて遊び場でした。今も子どもたちにとつて、楽しく遊べる環境を整えたいという思いからボランティアで川の清掃活動を毎年行っています。広田が綺麗になる取り組みはとても楽しく、やりがいを感じています。

畑中—実は、昨年度に広田でかなり広い面積を耕作していた方が2人亡くなりました。その方は、広田の田んぼのことをよく知っていて、皆から頼りにされていた方でした。「広田の田んぼはこれからどうなっていくのだろう」と不安になって危機感が募りましたが、農業のまちである御浜町の中心地で、広田の田園風景を守りたいという気持ちが強くなり、仲間とともに動き始めました。

—皆さんは広田の田んぼでは主に何を作付けしていますか。—
原田—僕は、家庭菜園を楽しんでいます。今の時期は、オクラや唐辛子ができそうです。今年は、他にも人参、サトイモ、カボチャを作付けしましたが、イノシシの被害がひどくて全滅でした。とても残念です。



【原田さんの畑 唐辛子の作付けの様子】

山口—僕は、今年餅米を作っていて、なんとか無事に収穫時期を迎えています。イノシシなどの獣害対策として自分で電柵を設置したり、土手の草刈りなどに取り組んでいます。

教えるもらっています。僕は、今年度から田んぼを借りて、今年から餅米と景観作物に取り組み始めました。神社の手伝いもしているので、将来は、広田でとれた餅米でお餅を作り奉納したいです。

畑中—僕が圃場へ行くといつも山口さんや原田さんは作業されていて、広田の圃場のことや農業全般について色々

—広田の田んぼについて、どんな問題意識を持っていますか。—
中山—広田は何十年前に圃

場整備事業が行われましたが、後継者の問題などで、上手く維持管理ができていないように感じます。農地にまともな管理がなくなると水路などの維持管理も困難となるため、個人でポンプを使って直接川から水を上げたりと非効率な事態が生じ、個人の営農の費用が高くなるなどの悪循環が生じます。

畑中—今、広田の広大な田園風景の存続が危機的な状況にあるということに多くの人が気づいていないのではない

かと思っています。人々が田んぼに触れ合う機会は、私たちの子ども達の頃と比べると減っているように感じます。しかし、田んぼには、お米を生産すること以外にも、多くの多面的機能があり、人々の暮らしに関わりがあることも気づいてほしいです。

■取材を終えて
広田の田んぼで、皆さんから広田の農業や地理的な歴史を教えてくださいました。その生き生きとしたお話を聞くと当時の農作業の風景や川で遊ぶ子どもたちの声が聞こえるようでした。タイムスリップしたようだった。来年度から新たなチャレンジャーをされる皆さんの笑顔は未来に向けて輝いてた。



【広田の将来について話すメンバーの様子】



【山口さんの田んぼ 稲刈り後の天日干しの様子】

原田—住宅地から近い田んぼは、近所の人たちの散歩コースにもなっているのですが、広田の田園風景がほっと一息つくような環境にしたいです。
山口—一番危険なことは、イノシシなどが住宅地へ侵入し生活面へ影響が及ぶことです。田んぼに人々が集えば、耕作放棄地も減り、鳥獣被害の軽減にもつながり、色々な作物が収穫できると思うので、がんばりたいです。
畑中—住宅地に近い田んぼの景観を保全するために、夏はヒマワリ、秋はコスモスなどを植えて、人々が田んぼに目を向けてもらえるようにしたいです。一緒に活動してくれる仲間も募集中です！



【畑中さんの圃場 秋にはコスモスの花が楽しめる予定】

取材：三重県熊野農林事務所 山口、西崎、橋本、御浜町役場農林水産課 大谷(令和6年8月) 問い合わせ先：熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

